

JA いしのまき青年部矢本地区  
部長 浅野 勝美

### 【紹介】

私たち、JA いしのまき青年部矢本地区は平成 25 年に 60 周年を迎えました。昭和 28 年に設立し周辺地区との合併を経て時代とともに様変わりしつつも代々引き継がれてきた伝統ある組織です。

私たちの住む東松島市は、宮城県の県都仙台市の北東、石巻広域圏の西端に位置し、平成 17 年に旧矢本町と旧鳴瀬町が平成の大合併。立地は三陸道など交通の便も良く、太平洋に面した温暖な気候により生き物・農作物にとっても快適な土地で「農業」「漁業」「商業」が共存する街でもあります。農業分野においては水稻を基幹とし県内有数の園芸産地でもあり、キュウリ、トマト、長ネギなど内外から高い評価を得ています。対外的には「ブルーインパルス」で知られる航空自衛隊松島基地があり、県内は勿論、県外からも熱心な航空ファンが訪れています。

また、私達の東松島市は、東日本大震災の被災地でもあります。現在、復興も進み、仮設住宅の方々も復興市営住宅に移住し始め、水田や畑は除塩作業も進み作付け面積も震災以前に戻りつつあります。

我が青年部でも一度は農業を諦めかけた盟友もいましたが、復興支援事業として青年部盟友全体で支え合い現在まで進むことができました。また、JA や全国各地の方々、ボランティアの方々にも多大な支援をいただきました。感謝してもしきれないほどです。

JA いしのまき青年部は、「石巻地区」「河北地区」「河南地区」「矢本地区」の 4 つの地区で構成され、盟友数は 115 名になります。

矢本地区は、現在「矢本」「赤井」の 2 支部、6 班 34 名の盟友で組織し地域の発展や農業の推進を目標に活動しています。

各班ごとの主な活動としては、夏祭りでの屋台の出店や、堀払い、草刈りなどの作業を請け負ったりと地元の人たちから頼りにされ、地域に密着した活力を生み出す集団でもあります。

「さ～て、地域発展のために活動すっか」

時には親睦会を行いまして盟友間の交流を深め又地域の発展と青年部や農業について熱い意見が交わされ深夜に及ぶことも

こうした活発な活動が青年部事業を支える原動力になっていると考えられます。

### 【E - y o u t h 関係】

東松島青年連絡協議会（略称 E - y o u t h）

これは、農協青年部・商工会青年部・漁協青年部で構成されており、主に東松島市の発展や P

R、各団体の活性化を図っていく組織です。

この組織が発足するきっかけは、夜の繁華街。農協青年部盟友と商工会青年部盟友がたまたま居合わせた宴の席にて意気投合。それから、JAいしのまき青年部が開催している食興祭への出店依頼や我が矢本地区の事業である後継者交流会へ招待したりと交流を深めていきました。

平成 25 年 5 月、商工会青年部より連絡が。要件は、毎年 8 月に開催されている東松島夏祭りについてでした。震災前は、航空自衛隊松島基地にて開催されていた航空祭の前夜祭として行われてきたお祭りで、震災後は東松島夏祭りとして地域住民の活力になりたいと開催しているお祭りです。

その夏祭りを「一緒にやろう！」と、前実行委員長から声がかかりました。

これまで各地区のお祭りをを行うことはあっても、市全体という大きなお祭りをを行うことは未経験でした。しかし我々は地元のPRと発展、そして農協青年部自体の活性化を図るにはもってこいの話だと思い参加することにしました。

はじめは企画の練り直しや予算関係のことに戸惑いましたが、前実行委員会から学び、何度も何度も会議を繰り返し、手探りの状態ではありましたが少しずつ前進していきました。

「せっかく青年部でやんだがら、青年部メインでなにかやっぺ」  
企画を考える際に、E - y o u t h 盟友から声が  
「んだな！」青年部が実行委員でやるのであれば、それを活かして各青年部に得があっていいじゃないか！

そこで考えたのが『青年部横丁』

東松島産の魚介類と農産物をコラボした商品や各団体に物産品や生産物を持ち寄り販売し、青年部と東松島をPRしようと考えました。

やる気に満ち溢れた 1 年目

青年部横丁での販売品目

茹でとうもろこし、ホタテ串、野菜スティック海苔ドレッシングを付けて、枝豆とむし海老のおつまみセット、ワカメおにぎり、生ビールなどの飲み物類、米麺・海苔ドレッシングなどの物産販売、イベントとして、流し米麺

間違いない！売上で合同の視察研修でもすっちゃ！

会議の席では意気揚々と大盛り上がり！

さて！祭り当日「いらっしやいませー！」「ありがとうございましたー！」元気いっぱいの声が飛び交った！

開始から 5 時間後

「値下げしました〜」「助けてくださ〜い」と助けを求める声へ

売れ残り多々…〇〇万円の赤字…悪夢を見ているのか……………どうすっぺ…

夏まつり自体は、大盛況で他に企画したことなどは評判が良く、来客数も 3 万人ほどでした。青年部としては達成感と悔しさが混じる複雑な心境でした。

平成 26 年東松島夏祭り 反省をいかした 2 年目

夏祭りは、予算や場所の問題で打ち上げ花火ができないなど課題が多くありましたが、1 年やったことで自信もあり、祭りの準備は順調に進みました。

さて、青年部横丁はどうなったでしょう？

1 年目は欲張りすぎた！品目を減らして、まず売り切ろう！とハードルを極端に下げ

品目 ホルモン焼き、焼きトウモロコシ、ホットドック、から揚げ串、焼きウニ、飲み物類を出品！コラボ商品がないような…それは置いといて

「いらっしやいませー！！」

「おいしい！おいしい！焼きともろこし、ホルモン焼きはいかがですか！」気合いの入った接客開始から 5 時間後

「値下げしましたー」………また失敗？………ではなく

多少の売れ残りではありますが、青年部盟友それぞれが材料を格安に仕入れてきたり青年部へ協賛として提供したり、地域の方々にも支えられたこともあり、なんと打ち上げできる程の売上が生まれました。

夏祭りも 2 年連続で大盛況！ やっと満足する成果をあげることができました。

夏祭りを経験したことで、E・y o u t h はより一層結束し強い絆となりました。そして、農協青年部にとっても他業種、地元である東松島市を以前よりも知ることができました。この経験により我々は更なるステップへと進むでしょう。

## 【6 次産業化】

「震災からの復興も進んできたな〜」「そろそろ新しいことすっぺ」

「なにすっぺ」「ん〜…」「前話してた商品開発でもやってみっが？」

「なにつくっぺ」「やっぱ豆腐でね」

青年部が主催で 17 年間取り組んできている食育活動に「わんぱく探検めぐりスクール」があります。体験学習として東松島産の大豆を使った豆腐づくりを取り入れており、指導するほど作り方は完ぺき！

しかし商品化となると、なかなかどうしたらよいものか…

どうやったら商品をつくり販売できるのかさえ理解していなかった我々

ましてや、年々盟友が減少し、事業への参加人数も減ってきている中で商品開発や販売をすると…難しい・厳しいが頭をよぎる

「今度焼肉のタレ作りするから参加してみない？」

「男の料理教室なんていいんじゃないですか！」「めざせモコミチ！笑」

と声をかけてきてくれた方々がいます。

フレッシュミズ会矢本地区です。

フレッシュミズ会は若手の女性部員で結成され、地元の方々を招いて米粉料理教室を行っているなど、様々な事業を展開しています。

その「フレッシュミズ会」では独自に考案した焼肉のタレを作り、イベントなどで販売しています。

まずは、経験。奥様達から学ぼう！

せっかく声をかけてもらったのだから一回くらい参加してみっか。正直心の中では料理？エプロン？なんてものは亭主関白の男軍団の我々にとっては縁もゆかりもないこと。

しかし、商品開発のために何かヒントが見つかるのでは。と思い決死のダイブ！

・・・意外と楽しいな・・・

なぜかエプロンが様になっている！

そんな気持ちになってしまった、男軍団はフレッシュミズ会メンバーと楽しくタレ作りを経験し、また、どういった経緯で販売へもっていったのかななどの話を聞くこともできました。

現在、夏祭りでの販売を目指して料理の技術を磨きつつ、「東松島市」「農協青年部」らしい商品を模索中です。

### 【まとめ】

人と人の繋がりや行動をおこすことから始まり、自然と広がっていく。

夏祭りや料理教室に参加したように、他の組織と交流し過去に経験のないことにも積極的に挑戦したからこそ新しいヴィジョンが見えてきました。

「繋がり」は財産です。

人との繋がりを守り絶やさず、次世代へと繋げていき、青年部という組織を時代によって新しく変えていかねばならないと考えています。

我々のこれまで取り組んできた主な活動である、わんぱく探検あぐりスクール、E-youth、これらは様々な可能性を秘めています。例えば、世情、環境の変化に対応し得る多角的な発想はE-youth の他業種同士ならではの連携。生命維持産業としての農業を食育活動の一環として子ども達に教えるわんぱく探検あぐりスクールはその重要な位置にあります。

また、夏まつりを通して地元の良いものをまず地元の人たちに知ってもらうことから始まる地産地消。もちろんそれらは顔のわかる人から新鮮で美味しいものを買うことによって確立される食に対しての安全・安心に直結しています。

東日本大震災という未曾有の大災害に直面した我々。青年部盟友個々人にも柔軟な対応が要求されました。しかし、様々な人たちの協力無しではそれは為しえませんが、助けて下さった方々のおかげで現在に至り、そして続いています。

これからの未来においても農業情勢や災害など環境が変わっていくのは確かなことです。ですが、我々青年部矢本地区は環境の変化に負けることなく進んでいきます。

「人」と「人」との繋がりを胸に